

校名：京都教育大学附属幼稚園

所在地：〒612-0071

京都市伏見区桃山井伊掃部東町 16

電話番号：075-601-0307

記載日：2016年 5月 20日

記載者：村田眞里子

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本園は、昨年度（平成27年度）に創立130周年を迎えた歴史ある幼稚園である。明治18年（1885年）に京都府女学校・師範学科に附属幼稚園として創立したところから附属幼稚園の歩みが始まった。京都市内において何度かの移転を経て、昭和43年（1968年）3月に現在の所在地に移転し、50年あまりが経とうとしている。本園が立地する辺りは、豊臣秀吉が築城した伏見城の城下町だったところで、園庭からは伏見桃山城を望むことができる。また、この地域は昔からおいしい水が湧き出る所としても知られ、近くの「御香宮」神社に湧き出る水は「日本の名水100選」にも選ばれるほどの名水と称され、そのことからこの伏見の地域には古くから造り酒屋が軒を連ね、昔からの町並みを今に残しつつ、京都市の南部において開けてきた土地といえる。本園から少し足を伸ばせば、明治天皇陵、桓武天皇陵などがあり、陵墓には緑豊かな自然が保持されていることも手伝い、自然豊かな非常に静かな場所となっている。本園から歩いて数分の位置に京阪電車・近鉄電車の「丹波橋」駅がある。本園は徒歩・公共交通機関での親子での登降園をルールとしているが、アクセスとしては非常によい場所に立地しているといえる。

本園は「自分で考え行動することも、想像豊かに遊ぶことも、人・ものとともに生活を創ることも」を教育目標としている。3歳児は20名1学級、4歳児は60名で3グループ制、5歳児は60名で緩やかな2学級制をとっていて、140名の子どもたちを全教職員が一丸となりチーム保育を実施している。園内では生き物の継続飼育や植物の栽培活動を保育の中に積極的に取り入れて直接体験を大切に、体験や経験の連続性が豊かな学びに繋がる保育を創造している。昨年度（27年度）までの3カ年は「生き物と共に育つ保育のあり方」をテーマとして研究を進めてきた。本年度からは、「幼児期の“探究力”を探る」をテーマとして、3カ年の計画で研究活動を進めている。また、幼・小・中への学びの連続性も視野に入れて研究に取り組んでいる。桃山地区三校園連携研究（附属幼稚園、附属桃山小学校、附属桃山中学校）がそれで、学びの主体性を育む連携教育研究として進めている。また、本学幼児教育学科との連携研究と位置付け「協働的な学び合いを生成する研修体制の構築及び現職教員研修プログラムの開発」をテーマとして本年度より研究を進めている。このプロジェクトは、大学学生の保育実践力向上支援と附属幼稚園の幼児教育の質的向上を目指すもので、幼児教育科と附属幼稚園の協働研修プログラムの開発を行うことを目的としている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

①～③について、追跡調査を行っていないが、修了児の多くは附属桃山小学校、附属京都小中学校へ進学するため、小学校での情報は、それぞれの小学校で把握している。本園としては把握していない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ①追跡調査を敢えて行っていないが、公立学校に戻られた様子は、その園の園長（管理職）から聞いている。
- ②把握した情報は、本園管理職が把握している。
- ③各園の園長ならびに市教育委員会との懇談で得た情報として把握しているのみである。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

現在、本園が進めている研究として以下のものがあげられる。本園のおおまかな特色でも記述しているが、以下の通りである。

◎園内プロジェクト

本年度（平成 28 年度）から「幼児期の“探究力”を探る」をテーマとして、3カ年の計画で研究活動を進めている。幼児が主体的に遊びをすすめていく中で、どのように学びを深めていくのか、その過程や自ら学ぼうとする姿を“探究力”をとらえる。その具体的な姿から幼児期における“探究力”とは何かを探ることを目的とし、さらに、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を、小学校教育との学びの連続性に考慮しながら、“探究力”の視点を含め、教育課程・保育計画の編成を通して明確化していく。

◎幼児教育学科との協働プロジェクト

本学幼児教育学科との連携研究と位置付け「協働的な学び合いを生成する研修体制の構築及び現職教員研修プログラムの開発」をテーマとして研究を進めている。本研究は、学部学生の保育実践力向上支援と附属幼稚園の幼児教育の質的向上を目指すとともに、幼児教育学科と附属幼稚園の協働研修プログラムの開発を行うことを目的としている。また、本プロジェクトでは、京都市立幼稚園教育研究会との協働による研修を行うなど、中堅保育者や管理職のリーダー研修としての活用も考慮している。

◎三校園連携プロジェクト

桃山地区三校園連携研究（附属幼稚園，附属桃山小学校，附属桃山中学校）として、学びの主体性を育む連携教育研究として進めている。幼稚園から中学校までの12年間の一貫した子どもたちの学びを探究する研究である。幼・小・中への学びの連続性も視野に入れて研究に取り組んでいる。

◎大学プロジェクト

平成 27 年度（2015 年度）より、「グローバル人材育成プログラムの開発」の一環として、本学が進める研究との協力・連携をはかり、グローバル社会を生き抜く子どもに必要な資質や能力の研究を様々な観点から進めている。

昨年度（平成 27 年度）終了した3カ年間のプロジェクト研究は「生き物と共に育つ保育のあり方」をテーマとして研究を進めてきた。毎年、学会発表を重ねてきており、生き物を飼育することでの教育課程表ならびに指導計画をまとめ、それについては広く公開していく予定としている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○保育者や管理職のリーダー研修としての活用の場、京都府・市の幼稚園教育のモデル園となり、京都府・市の基幹幼稚園として寄与する。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○本園は、京都市の南部の桃山地区に立地している。この桃山地区には、附属幼稚園・附属桃山小学校・附属桃山中学校が隣接していて、幼・小・中の連携を見据えた連続的な子どもの見取りが可能となっている。子どもたちにとって最初の教育の段階としての幼稚園教育は、その連携教育の中にあって重要なものである。連続的な幼児教育のありかた、あるべき姿を発信していくことは必要であり、附属幼稚園ではそれが可能である。

○大学を主体とした特色ある附属学校の研究・研修を大学との連携によって推進している。本園において取り組んできた研究やその考え方を維持しつつ、大学との連携を模索した研究・研修を進めることが可能である。とくに大学で行われる基礎的な研究の場所の提供を行うとともに、大学教員が保育実践、公開保育についての助言者となり、実践研究を共に進めることが可能となっている。

○幼稚園免許取得のための教育実習の指導ならびに学生の研究・実習の場所としての附属幼稚園として重要である。2回生の「附属学校観察参加研究」、3回生の「主免教育実習」、4回生の「副免教育実習」などとともに、卒園学生で他大学生の「母園実習」、そしてインターンシップ実習や学生ボランティアなどは附属幼稚園の本務といえ、本園の教諭が学生指導の講師となっている。また、本園の教諭が、大学へおもむき教育課程（理科教育）の講師として実践を通じた幼児教育について講師を務めている。

○実践的資料の作成と京都府・市、さらには全国の幼稚園教諭のためのスタンダードモデルの提供、ならびにそれに即した資料提供を行っている。とくに本園において毎年実施している「幼児教育を考える協議会」では、研究成果として得られたものを公開保育として発表し、それぞれの園にて様々なかたちで活用できるように広く情報発信を進めている。ここ2年間は土曜日に協議会を開催し、現役の教員が参加しやすい日程にし、多くの参加者を迎え、活発な協議を行っている。加えて、本園では3年毎に教育課程・保育計画（カリキュラムや教材、指導法など）の見直しを行っているが、それぞれの実践を基礎とした資料の提供を様々な場面でやっている。

○京都市教育委員会との人事交流（1期3年の2期を基本とする）を通じて、人材の育成を進めている。

○本学幼児教育学科との連携研究と位置付け「協働的な学び合いを生成する研修体制の構築及び現職教員研修プログラムの開発」をテーマとして研究を進めており、学部学生の保育実践力向上支援と附属幼稚園の幼児教育の質的向上を目指すとともに、幼児教育学科と附属幼稚園の協働研修プログラムの開発を行うことを目的としている。また、京都市立幼稚園教育研究会との協働による研修を行うなど、中堅保育者や管理職のリーダー研修としての活用も考慮している。

○毎年行われている幼稚園教育理解推進事業京都府研究協議会では、京都府、京都市、私立の幼稚

園教諭の研修・学びの場となっているが、附属幼稚園の教職員は研究発表者、指導助言など何らかのかたちでこの事業に関わっている。

○国立教育政策研究所で実施している幼児教育研究プロジェクト「幼小接続に関する調査等」に積極的に協力している。